

第4回子育て子育て支援検討委員会

第1回検討委員会での「居場所に関する」主なる意見の要約 (4月20日開催)

- 行く場所が多ければ 子どもはのびのびと過ごせる ⇒ 必要な施設の設置
- 0歳児と小学生が同じ空間にいることの危険性 ⇒ 広場の運営上の課題
- コロナ禍での出産 ⇒ 家から出れない・遊び方がわからない
- 子育て状態が見えない ⇒ 他の人の子育てがみえない、子育てどうしたらよいのかわからない
⇒ 相談する場所がわからない
- 家から出ることができない人は子育てをどうしているのか
- 若い夫婦 ⇒ 子育てがわからない ⇒ 親からの支援は、親も自分の生活があり支援が得られない
- 人の子育てを見て 安心感を得る ⇒ 子育ては人のまねをすること ⇒ 子育てに触れる場所が必要 広場
- 子育てに我慢して 孤立する親
- 身近なところで いける所が安心
- 孤立した子育てへの伴走
- 子育てしているお母さんをサポートしてくれる仕組み、不安解消
- コロナ禍で 他の親子の子育てが見えない 親子の交流ができない (交流する場が限られる)
⇒ 親子が交流するためには、スタッフがいる広場が有効
 - ・ 参観日 懇談日 一人悩んでいる
 - ・ 地域とのつながり 家族の子育て力

居 場 所

親の不安感、親の居場所づくりは、子どもと連動している。
親に必要な居場所づくりは、子どもにとっても必要な居場所をつくるということ

親の居場所

親が困ったときの
居場所（逃げ場）

保護者の居場所

子育ての先輩と話ができる、どうしようといえる場所、お母さんも相談できる場所、

孤立感からの解放

室内遊戯

子どもの動き、遊具も子どもの発達、遊び方を教えてくれる

相 談

遊び方の伝達⇒相談⇒つなげる人でカバーしていくもの

気軽に行ける場所

子育て施設で食べれるところがない
親子でお弁当

子育てへの
孤独感

じゃんけんぽん （こども広場）

話したい、
共感したい
⇒ 相談したい

保護者が行く場所 入りやすい場所

楽しい、友達、おもしろい遊び
⇒ 更に相談できる ⇒ お得感

人が集まる ⇒ 相談 ⇒ 交流

妊娠期

横のつながり

チームがつくれる体制。
発達支援センターも入
れて、市内に点在化し
ても良い

小学生の居場所 学校や集団に疲れて いる子ども達

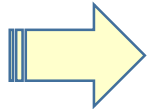
生き洩り
不登校
好んでいられる
場所がない

青年 期

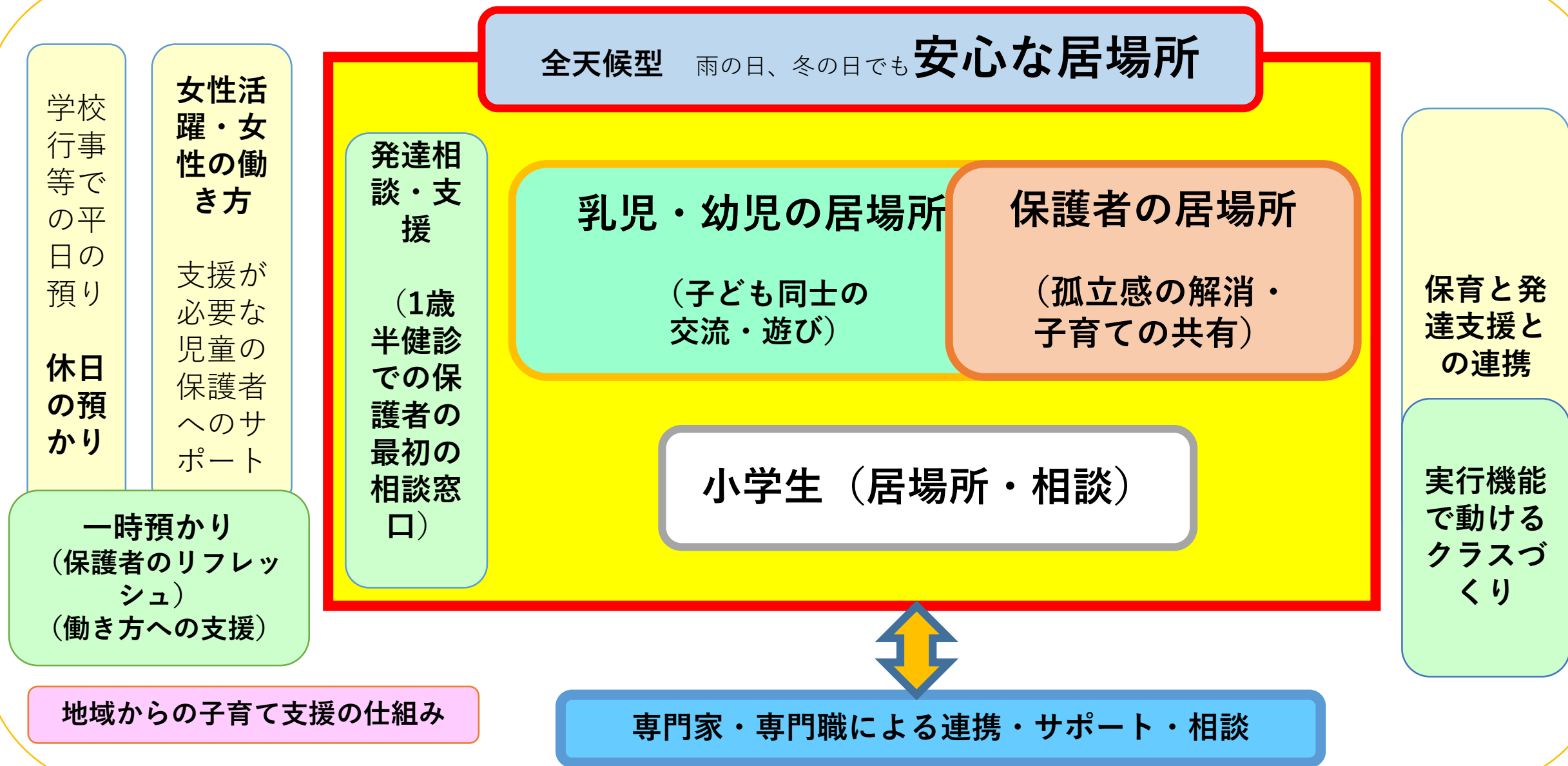
自分自身のトリセツ
相談できる場所をつくりな
がら社会へでていく

まとめ

乳児・幼児の居場所 保護者の居場所 小学生の居場所



長野市子育て子育て支援 安心安全な居場所づくり



整理する論点

今までの検討委員会の議論から、様々な支援メニューの中から、長野市の今の子ども達（保護者）にとって最も必要とされる支援の一つが、「**安心に過ごせる居場所を提供すること**」

◎ 居場所づくりについて

乳幼児にとっての居場所

保護者にとっての居場所

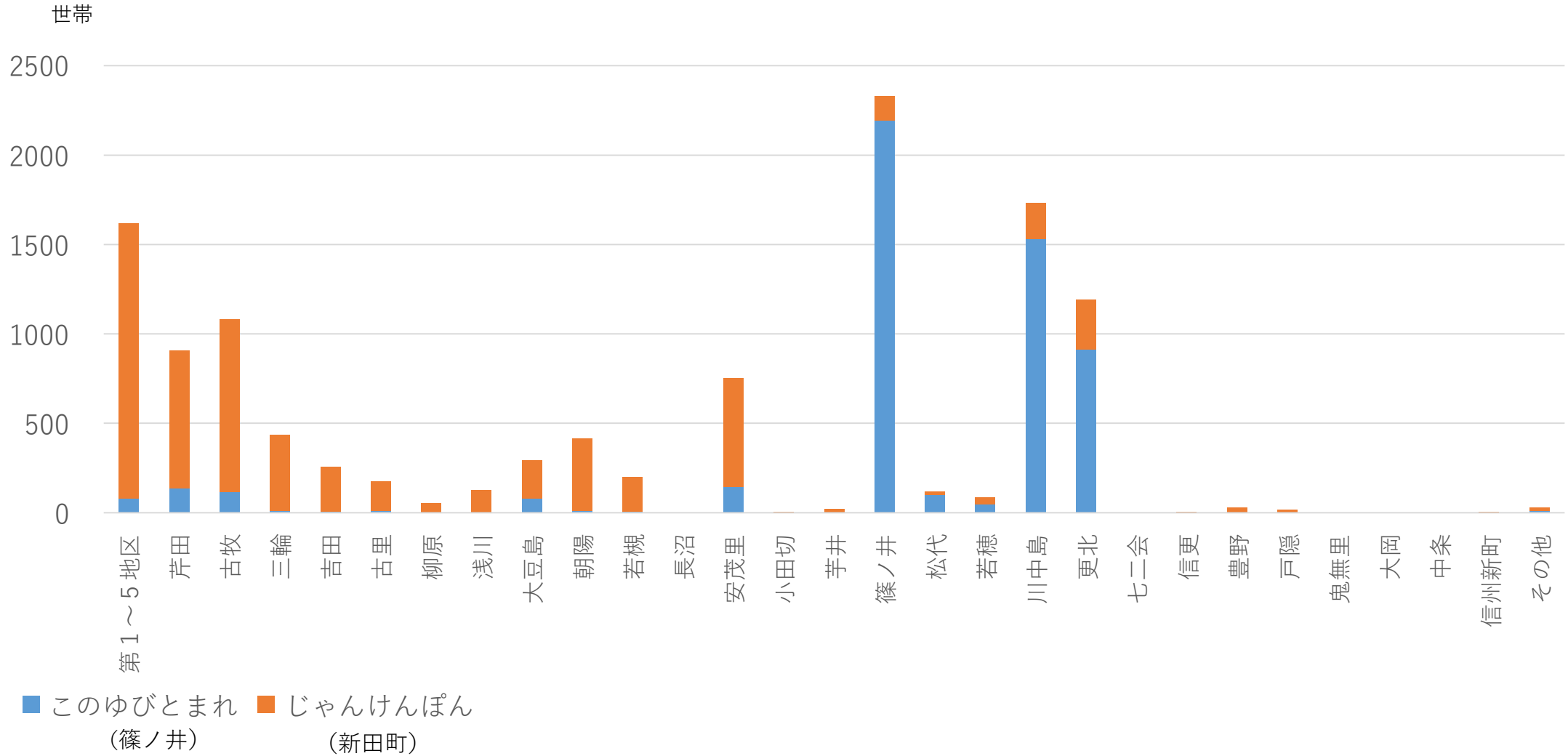
小学生（例えば 低学年）にとっての居場所

◎ 何が求められているものなのか？
支援として求められているものは？

◎ 居場所をどのように提供できれば、利用し易い？
（体力差のある子ども達のすみ分けは？必要とされる道具や遊具の工夫は？）
いごごちの良い居場所とは？
（安心 安全な居場所）（その子にとって、いてもいいんだよと思える居場所）

◎ 専門家・専門職によるサポートとは？

こども広場利用世帯数



こども広場と地域子育て支援センター利用者数（篠ノ井・川中島・更北地区）の推移

参考

